

モスバリアジュニアⅡレッドはヒラズハナアザミウマにも効きますか？

効きません。栃木県のいちご生産者さんの圃場にて2シーズンに渡りモスバリアを設置して経過を観察したところ、体長が大きい黒色のヒラズハナアザミウマの抑制効果は小さいことが確認されました。ヒラズハナアザミウマの成虫はディアナやスピノエースなどの農薬を散布しても致死率が上がりにくいことも生産者から報告されており、薬剤抵抗性を発達させているようです。現地圃場での情報収集を基に、弊社では現在のところモスバリアのヒラズハナアザミウマに対する抑制効果は殆どないという見解です。なおこの時、例年多発傾向にある体長の小さいオレンジ色のミナミキイロアザミウマとミカンキイロアザミウマは発見ができないほど減少していることが観察でき、モスバリアによるミナミキイロアザミウマとミカンキイロアザミウマの抑制効果が確認できました。

ヒラズハナアザミウマの対策には捕虫実績のあるスマートキャッチャーやアザミウマキャッチャーをご利用ください。

ヒラズハナアザミウマ

ヒラズハナアザミウマは、キク、トマト、イチジクなどに被害を及ぼす。雌成虫の体長は約1.3-1.7mm、体色は褐色～暗褐色である。ミカンキイロアザミウマと同様の被害が発生し、各種花き類では、花弁を脱色する。開花期の果菜類では、本種が子房に産卵することで白ぶくれ症を生じる。イチジクでは果実内部を褐変させる。露地では4-11月に発生し、5-6月と9-10月に多い。短日条件下で生殖休眠し、露地で越冬する。

千葉県では、2010年にイチゴから採集された個体群でエマメクチン安息香酸塩剤およびクロルフェナピル剤の殺虫効果が高く、アセタミプリド剤などネオニコチノイド系剤の殺虫効果は低かった。栃木県では、2011年にイチゴおよびナスから採集された個体群でエマメクチン安息香酸塩剤およびスピノシン系剤の殺虫効果が高く、ピリダリル剤の殺虫効果は低かった。茨城県では、イチゴから採集された個体群でアクリナトリン剤、アセタミプリド剤、エマメクチン安息香酸塩剤、スピノシン剤、クロルフェナピル剤の殺虫効果はいずれも低かった。大阪府内では1999年に岸和田市のシロツメクサから採集された個体群で有機リン系剤、ネライストキシン系剤、クロルフェナピル剤の殺虫効果が高く、ピレスロイド系剤およびネオニコチノイド系剤の一部の殺虫効果は低かった。

「大阪府内におけるアザミウマ類の薬剤殺虫効果の現状と新たな防除体系」より引用

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjpestics/45/1/45_W20-11/_pdf/-char/ja